「プロジェクト型ふるさと母校応援」ふるさと納税（寄付金）活用報告

「地域に根ざしたものづくりマイスターを目指して！福井東特別支援学校の挑戦」を応援していただきました皆様へ

この度は、福井県立福井東特別支援学校「地域に根ざしたものづくりマイスターを目指して！プロジェクト」に対し貴重な御寄付をいただき、誠にありがとうございました。

皆様からいただいた貴重な志は、今後継続して、本物に触れられる物づくりのための授業作りに役立てていきたいと考えております。まずは、今年度取り組んだ活用内容について、御報告いたします。

今後とも、ふるさと福井の子ども達へ熱い御支援を賜りますようお願い申し上げます。

福井県立福井東特別支援学校　校長　西尾　幸代

活用１

ものづくりをお仕事としている外部の専門家をお呼びして、技術指導講習会を開催しました。

①畑作業班で農閑期に行っているプリザーブドフラワー作りの技術講習会を１２月と３月の２回開催しました。講師として鯖江市にあるフラワーリバティ所属の日本フラワーデザイナー協会講師でもある上木美枝さんをお招きして、基本的な技術を教えていただきながら制作しました。生徒自身で選んだお花や素材を活かしつつ、専門家ならではのちょっとしたポイントやアドバイスを受けながら、素敵な作品を制作することができました。

②２月には、越前和紙を使った紙袋制作のワークショップを開催しました。講師として越前市にある山伝製紙株式会社の山口真史さんと山口奈々さんが来校され、前半は越前和紙についてのお話しと企業での取り組みについて、後半は山伝製紙さんで取り組んだ損紙を使ってのエコバッグ作りのワークショップが開かれました。伝統だけでなく、社会貢献、SDGｓの取り組みについての作り手側からの考えも聞くことができ、生徒たちは目を輝かせて話を聞いていました。

本校では、作業学習の中で新聞紙やコピー用紙の包装紙を使った紙箱作りや野菜を入れる袋作り、和紙を使ったご祝儀袋作りにも取り組んでいます。リサイクルではなく、アップサイクル（創造的再利用）の視点から見ても山伝製紙さんの取り組みと何か通じるものを感じることができました。

授業の様子は、地元福井新聞にも取り上げられ、本校のプロジェクトについても紹介されました。

2023.2.12 福井新聞

ものづくり 本物触れる

福井東特支高等部

福井東特別支援学校高等部がものづくりを通した自立支援を強化していこうとクラウドファンディング（CF）で資金を集め、専門家や職人を招いて「本物」に触れる授業をスタートさせた。8日は越前和紙の製紙会社の担当者を招き、実際に使われた越前和紙のショッパー（手提げ袋）づくりを体験した。担当教諭らは「本物をつくり出す自信を持ってもらいたい」と、3月には製品の販売会も予定している。（菊野昭彦）

教育 知る・分かる

CFで専門家招き

ふるさと納税を活用したCFは昨年6月から9月まで実施。目標額100万円のところ、157万9千円が集まった。高等部では自己キャリア形成と自立支援にと▽農業▽木工▽クラフト▽軽作業―の四つの班が作業に取り組んでおり、資金は専門家の招へいや必要な道具、材料の購入、販売会などの展示会の会場設営などに充てる。

和紙の授業は、生花業者を招いたブリザーブドフラワーづくりに続く第2弾で、山伝製紙（越前市）の山口真史さんと山口奈々さんが講師に招かれた。2人は一日8千㍍の和紙をつくる自社の生産現場を紹介。さらに折り紙風の消臭抗菌マスクや漆を塗った和紙の食器づくり、和紙を使ったディスプレーなど、SDGｓや未来の製品作りにこだわった「ものづくりの現在」を、生徒に示してみせた。

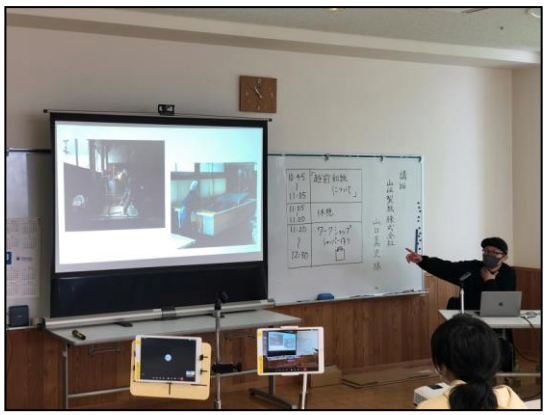
ワークショップでは、今年の初売りでデパートの福袋に「転用」した和紙の実例を説明した上で、同じショッパーづくりに挑戦。実際と同じ工程で、同じ越前和紙に折り目を付け、工事に貼り合わせながら同等の「製品」を作り上げた。酒井勇輝さん（2年）は「本物の和紙はきれいで、袋は自分でも使ってみたい。和紙の話も聞けて面白かった」と顔をほころばせていた。

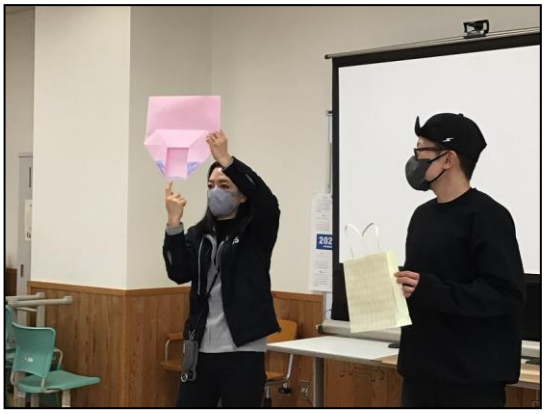
山口真史さんは「取り組みに協力できてうれしい。自分たちの仕事を分かってもらえて、生徒さんの学びにもつながればウィンウィンです」と話していた。

今後の活動では授業のほか、3月6日に学校のエントランスで製品の合同発売会を予定している。担当教諭は「これまで校内対象の販売会はあったが、一般の方も立ち寄れる販売は初の試み。達成感を高め、社会とのつながりを増やしていきたい」と話している。

説明を聞き丁寧に越前和紙を折る高等部生徒（右）－8日、福井市の福井東特別支援学校

越前和紙でショッパーをつくる手順を説明する山口真史さん（右）と山口奈々さん

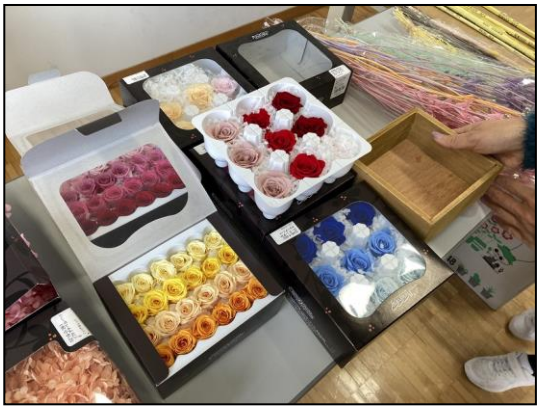




活用２

ものづくりの授業に必要な道具や材料を購入させていただきました。

　いただいた寄付金で、木工作業で使用する充電式ランダムオービットサンダや、電動のこぎり替刃など、また、クラフト作業で使用するＵＶレジン用ＬＥＤライト、手織機など、その他、ものづくりの授業に必要な道具や技術講習会で使用する消耗品等を数多く購入しました。新たな道具により、今までできなかったものづくりに本格的に取り組めるようになりました。



活用３

自分たちで作り上げた製品や作品を、保護者や地域の皆さまに向けて各作業班合同による展示販売会を開催しました。

　技術指導講習会で学んだ技術や、新しく購入した道具等を活用して制作した製品や作品を、保護者や地域の皆さまにも知っていただき、購入してもらう機会として、今年度初めて、各作業班合同による展示販売会を、３月６日に、本校エントランスホールにて開催しました。生徒たちで考えたその名は「福い～ストア　東わくわくマーケット」と題して、各作業班で協力して、いただいた寄付金で新しく立派な看板を作らせていただきました。保護者や地域の皆さまには、たくさん来場していただき、みなさんに喜んでいただきました。

「福い～ストア　東わくわくマーケット」　　**展示販売会に参加した生徒の感想**

「これまで時間をかけて作ってきた製品を多くの方に買っていただけたことが素直に嬉しかったです。予想を遙かに超える量が売れて正直驚きました。自分達が作ったものが、買ってくださった方の元で役に立つといいなと思います。丁寧に仕上げたかいがありました。

　卒業する前にこのようなイベントに参加できて本当に良かったです。またひとつ思い出が増えました。」

「初めてみんなと販売会ができて、お客様にもたくさん来て頂けて、お客様の笑顔も見れてとても嬉しかったです。ぜひまたやらせて頂きたいです。」